

専門家個人が専門家として
居場所を得て活躍できる社会づくりをめざして

Japa 交流会2025/05

- 17:25~17:30 開会挨拶
- 17:30~17:40 参加者紹介
- 17:40~19:40 発表 (@15分) & 討議 (@15分)
 1. (一社)日本シニア起業支援機構: DX化による地方創生~陸上養殖・スマート農業~
 2. (一社)レジリエンス協会: 地方創生における国際標準導入と住民意識調査の提言
 3. (一社)チームまちづくり: ふるさと納税を活かした空き家対策・地方創生
 4. (一社)日本建築まちづくり適正支援機構: 良質な建築、美しいまちづくりを如何につくるか?
- 19:40~21:00 全体意見交換 with 飲食

Japaの活動の3つの柱

1. 専門家の知のアーカイブ: 収集・蓄積・共有・創発・発信

- ・ 分野を超えた“新結合”による「知のイノベーション」を起こしつつ、専門家としてのアーカイブを残す
 - *Japa Newsletter*の発行 → 今年度より、寄稿等を外部の情報発信サイト「経済レポート情報」にも掲載
 - 提言・報告の発表
 - HPの「知のアーカイブ」ページの拡充

2. 専門家の交流・連携(つながり)の拡大連鎖

- ・ 個の専門家(個人/コミュニティ)を超える社会的影響力【コレクティブインパクト】を発揮する
 - 連携団体の拡充
 - フォーラム(年2回)・交流会(今年度より、適宜)等の開催
 - 連携団体等との共創によるProject創発: 古民家活用、ハイブリッド型まちづくり 等

3. 専門家の活躍の場の拡大

- ・ 専門家が個人として活躍できる仕組みづくり・場づくりを促進し、もって専門家の自立・地位向上を図る
 - 地方創生の実践場の維持: 大磯コンソの設立・運営、市民主導型MaaS等の導入に向けて
 - 市民主導+専門家ファシリテート型社会的合意形成場「知恵ラボ」の仕組み・ツール開発・運用
 - 専門知のマッチングサイト「専門家サービス3.0」の運用
 - 研究開発/社会実装型公募(産官学連携)の支援・協力 ⇒ 地域実装支援

4. その他、本会の目的達成に必要な活動

- 「COVID-19」(アーカイブサイト)の開設・維持
- 市民向け勉強会 等

「Japa交流会」の開催趣旨

■ Japaとして、これまで「Japaフォーラム」を開催（年2回）

- 論点提起者（1名）による発表を受けて、参加者全員で討議し、その後、懇親会という形式で開催。2018年7月第1回以降、これまでに21回開催

■ 今年度より、フォーラムとは 別途、特定テーマに関し、関心を有する連携団体等を中心として、「Japa交流会」の開催（適宜）を行うこととした。

- 今回が第1回目

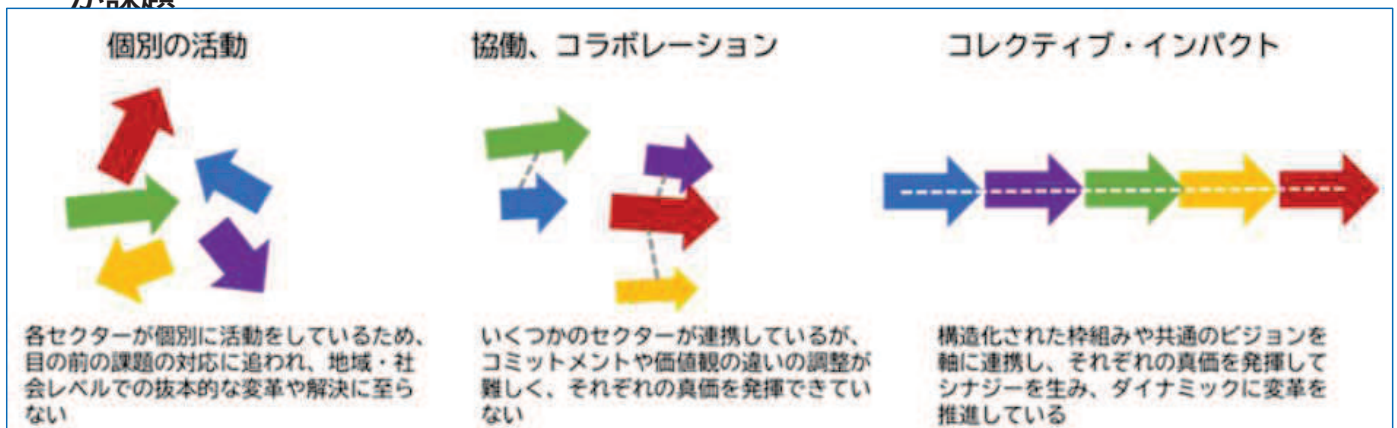
■ 第1回のテーマ：「地方創生に資するまちづくり」

- 各団体の企画・実践中の事業・Project・講座等の相互紹介、意見交換
- 各団体のメンバー をリアルに知り、今後の連携のきっかけ等につなげる
- 交流会のテーマ・関係者・関心者発掘

→ つながりの拡大・連鎖 → コレクティブインパクトを興す

参考：「コレクティブ・インパクト」をいかに興すか

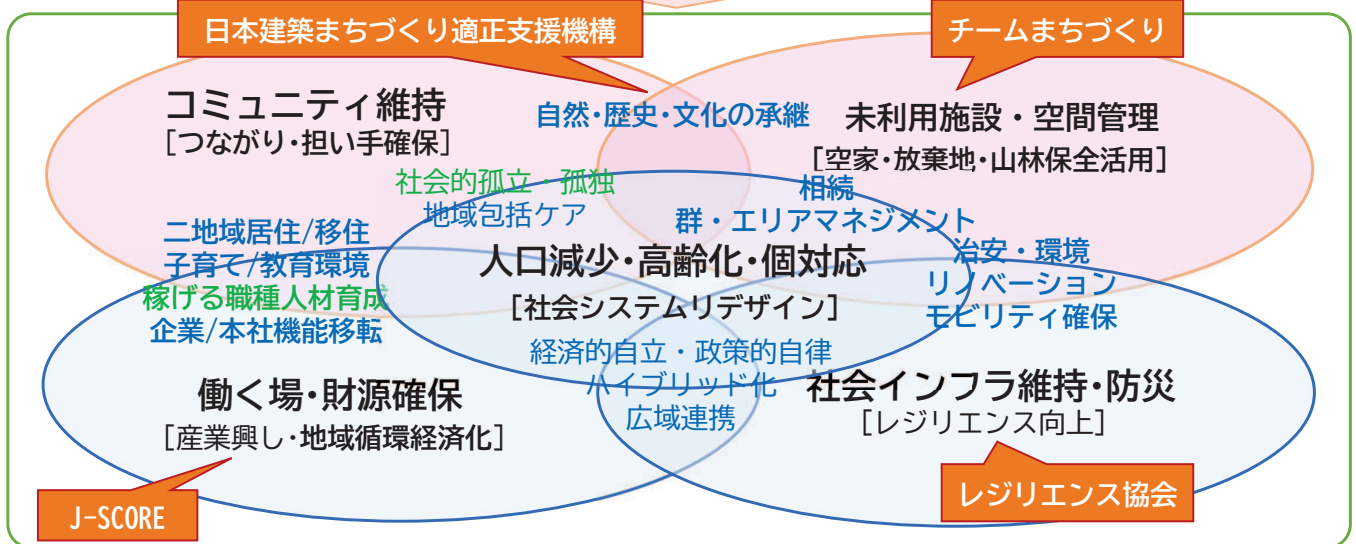
- 地域課題は包摂的なアプローチによるソリューションが必要とされ、個別単独の組織/コミュニティや個人による取り組みだけでは限界がある。また、それぞれの主体/コミュニティのユニークさ故に、他との連携が難しいことも少なくない。
- こうした状況をブレイクスルーするために、自律した個・団体・コミュニティがゆるやかに有機的につながり、かつ参加者/関心者等を巻き込みながら広がっていく「新たな結合＝イノベーションの源泉」を励起し、課題解決・Goal に向けて、各主体が持ち味を活かした機能分担／相互作用を行いつつ、コレクティブ・インパクト（Collective Impact）を生み出す仕組み/場を如何にして実現していくかが課題



思案：地域課題への2つのアプローチと発表テーマの関係

コミュニティ【市民（住民・就業者・企業・団体・大学等）】
域外関係者/関心者（個人・企業・団体・大学等）

市民主導の集合知に基づく社会的合意形成・活動/Project推進アプローチ



行政主導の公的合意形成・政策推進によるアプローチ

基礎自治体

各団体による発表